



# AA日本ニューズレター

〒100-91  
東京都中央郵便局  
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL03-590-5377

〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F FAX03-3590-5419

No.44

## 第一回 AAJSO 運営委員会全体会議開催さる

過日みなさまにお知らせしましたように、(a)ノンアルコール運営委員2名と、(b)アルコール運営委員5名で構成された運営委員会は、本年1月1日をもってスタートしました。

今年1年の活動話し合うために、東京飯田橋の千代田区民集会所に、事情があって参加できなかった森岡洋医師を除く運営委員全員と、前オフィス幹事会の井上氏と青山氏、JSOスタッフ3名に書記2名のかたがたを迎え、十時から四時半まで、密度の濃い会合を開くことができました。

まず、自己紹介の後、互選により、下記のとおり、それぞれが任務を引き受けることになりました。

運営委員長	長谷川氏(関東甲信越)
広報委員長	岡崎直人ケースワーカー
広報委員	森岡洋医師
広報委員献金担当	井出氏(北海道、東北)
財務委員長	奥村氏(中部北陸、関西)
BOX委員長	鈴木氏(関東甲信越)
常任理事会案検討	杉之尾氏(中四国、九州、沖縄)

今年後半の全体会議は10月16日に、また、第3日曜日の月例会議は、毎月の会合へ参加が可能な関東甲信越の運営委員を中心に行うことを確認して、次の議題に移りました。なお、6月に開催されるGSMには、原則として全員が参加します。

最大の課題は1994年度の予算でありましたが、その前に1993年度の当期繰越収支差額の2,255,137円の欠損金の処理について検討をしました。再販引当金を取り崩して償却する意見も強かったのですが、これは前年度のオフィス幹事会で処理すべき問題なので、市川前代表に決済を仰ぐことにしました。

1994年度予算については、1993年度の歳入不足基調を1994年度も引き継ぐと思われるため、熱心な討論を重ねました。結局、「12&12」、「回復への道」など、新版の販促をし、また、献金につ

いての全国的アピールを行うことにし、細部については臨時に長谷川委員長、奥村財務委員長、鈴木BOX委員長と、事務担当の林が打ち合わせをし、その決定に委ねることにしました。

JSOの最大の業務で有る広報活動については、ノンアルコール運営委員の岡崎ケースワーカーと森岡医師に広報委員会にかかわっていただき、JSOの山本がデスク、林が実践にまわり、効率的におこなっていくことになりました。

JSOの山本、小宮山、林それぞれの日常の業務内容と希望、あるいは業務処理上の問題点も出し合いました。また、昨年まで、JSO内に有給常任幹事と所長がそれぞれ存在していたことの対応についても、その処遇も含め、今回システムが変わったことにより、新運営委員会に調整を委ねることにしました。

書記の方に労を取って頂いているお陰で、月例会議も含め、臨場感あふれる議事録が、毎月の会計情報とともに、全グループにお届けできることとなります。

グループとJSOが密着して行動できるようになることが、新AAJSO運営委員会の全員一致の願いであります。皆様、どうぞよろしく願い申し上げます。

JSO運営委員会事務担当 林

### わたしの責任



誰かが、どこかで助けをもとめたら必ずそこにAAの(愛の)手があるようにしたい。  
それはわたしの責任だ。

## AAJSO発足のころを顧みて

全国的な選挙で委員が選出され、新しいオフィス運営委員会が発足致しました。このことは大変よろこばしいことだと思っております。これを機会に日本のゼネラルサービスオフィスの発足の頃を顧みてみたいと思います。

1975年、AAが日本に移植され、十数人の仲間とともに動き始めました。第一の仕事は新しい仲間呼びかけることでした。「まだ苦しんでいるアルコール中毒者たちにメッセージを運ぶことである」という言葉すら知らず、ただ仲間が必要だ、自分のよこびを人に分かち合いたいという衝動に駆られての行動でした。

どんな始まりでもそうですが、人々が集団として行動を始めると、さまざまな仕事が生まれてきます。サービスを直接することと、サービスすることを支援するサービスが生じるのです。

この理由で、わたしたちも自然発生的にサービスの機能的なものを作り上げていました。必要によって生まれたのですから、もちろん組織と言えるようなものではなく、自然に決まっていた一種の役割分担という個人的なものでした。事務所などはもちろんありませんし、帳簿のおいてある所が事務所であり、お金を保管している人が会計係でした。

こんな状態では印刷物をおく場所もありませんし、新しく仲間になりたい人達もどこへいったら良いのかも分かりません。自分のカバンが倉庫だという状態を卒業する時がきたのです。また、必要が事務所を作らせたのです。

1981年、信濃町のマンションを借りてオフィスを始めることになりました。

この時中心になったのが、亡きピートと校長とでした。特に校長は、事務所の必要性を強調するだけでなく、自分で格安な物件を探して借りてしまいました。あとの二人はこれに引っ張られていく始末でした。彼の強引さには大きな敬意を表しています。この信濃町のオフィス時代、二つの仕事がありました。一つは仲間の溜まり場的機能ともう一つが事務所としての役割です。

まず第一にやったことは経営のための幹事を決めたことです。幹事は上記3名の自ら任命した者たちと、彼らに口説かれたアルコール本人とノンアルコールの数名で構成され、月一回の例会を行いました。

第一ステップのオフィスの時代の、必要性を満たし、やれる者がやるを原則とし、自分で訳して印刷し、そ

れを売って資金化し、自分でミーティング会場を決め、仲間呼びかけていく、という個人の作業の時代は終了し、一応組織の時代に入ったのです。

この契機になったことで忘れてはならないのがビッグブックの日本語版出版があります。ビッグブックはアメリカのGSOが出版資金を出し、AA日本語グループ(つまりわたしたち)が販売して、その資金を返済するというで始めました。当時のわたしたちには資金を負担する余裕がなかったのです。

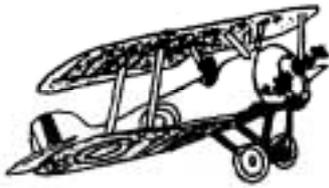
第二ステップの信濃町マンション時代には先程申しましたように、仲間の溜まり場的機能を持ちながらも、その役割を定めました。

1. 日本のAAのサービス体制を作る
2. AAの広報を行う
3. 出版事業を行う
4. メッセージを運ぶ病院施設、行政機関の窓口になるとともに、それらの機関と連携していく
5. AAのグループの登録を受け付ける。AAの献金の最終的受け取り手になる。
6. 全国にグループを広げて行く
7. 10周年記念大会を実施していく
8. AAのグループ間の諸問題を調整していく
9. ノン・アルコール専門家の意見を取り入れていく
10. これらのことを徹底した民主主義で貫いていく
11. その成果を10周年記念大会に集中していく。

このようなことを手探りで実践し始めました。新しいサービス構成についてはアメリカのGSOが当時出版していた「AAの機構(サービス・マニュアル)」が唯一の頼りでした。

アメリカのGSOとの連携がAAの文書の翻訳出版権の取得等を含めて必要になったころ、山本さんが出現し、ボランティア的職員になっていただきました。

グループの登録に際して、グループ代表・(代議員)を決めていただき、各グループに文書で連絡できるようになり、やがて代議員大会も開催されるようになりました。このことがどれほどうれしかったか、忘れられない記憶です。この代議員大会で、地区、地区委員会制度、関東サービス常任委員会が決められ、また十周年大会実行委員会が決められました。AAという民主主義とは途方もなく時間のかかることでした。目と目を見合わせてするフレンドリーな説得とは、何とまあ手間のかかることだと実感させられました。何でも、だれでも発言できることが代議員大会を飽きもせず



開催させたのだと思います。特に地区制度を決める委員会を担当された方々の努力には今でも敬意を表しております。

ここで伝統の実践が骨身に染みて必要になってきました。ステップ万能の時代に入ってきました。

この十周年大会の実施、それも代議員大会を開いて実践した事実、アメリカのGSOからは大きな敬意とよこびが表され、わたしたち日本のAAは独立したAAとして、そしてオフィスも日本のGSOとして認められたのです。

こうして多くの問題は解決されましたが、オフィスとしては二つの問題が残りました。一つは仲間の溜まり場としての機能ともう一つは財政的な問題でした。この問題を内包したまま、次のステップ、第三ステップへ移る過程でピートが亡くなりました。

これは打撃でした。ピートはAA出版をオフィスとは独立させた機関とする構想を持ち、その準備を進めていたこともありました。

第三ステップへ入る際に、仲間の溜まり場的なものはJSOと切り離してAAクラブ的なものを有志で作ろう、そしてJSOは事務所的機能を優先すべきであると、いう議論が主流を占めるようになりました。またそうしなければやっていけないほど事務量が増えていたのも事実でした。

さて、池袋のJSO(ここで気が付いたのですが、AAのオフィスをJSOというようになっていました。本来はJGSOの筈ですが、あるアメリカ人の仲間(亡き博士)がGSOは全世界に一つしかない、ゼネラルだからだと言いだめたのがどうやら真相のようです。もちろん、ゼネラルは「全て」という意味のゼネラルです。自立している各国のAAにはGSOがあることは言うまでもありません)ですが、1986年に第三ステップの現在のオフィスになりました。この時、オフィスの幹事だった人達が関東サービス常任委員を兼任していましたので、二つの機関が混同していました。兼任ということを広く議論もせずには人材がいなかったから仕方がないというようにしたことは間違いであったと思っております。また、全国代議員大会で、関東サービス常任委員会が、全国的構成の理事会が成立するまでの間その役割を負うという決定があり、全国的オフィス幹事の仕事を中心にして、関東の問題が

なおざりにされたきらいがあると反省しております。幸いにも、全国的な大きなことと、地域的なことを混同させると、力不足の機関の場合、必ずといってよい程、大きな問題に目がいく結果になることに気づき、4年後に兼務を中止することになりました。この点でも何に限らず広く議論することの必要性を痛感いたしました。

この第三ステップの池袋JSOの目標は、

1. 新しいサービス体制、全国的構成の確立
2. 各種事業の自立化(出版、定期刊行物等を独立会計とする)
3. 事務所機能の確立
  - イ. 任意法人として確立する。社会保険の加入等事務所としての義務を実施する。行政機関への働きかけ。
  - ロ. 予算制度、会計制度の確立(公益法人会計基準の採用)
  - ハ. 財政の健全化
4. 地方分化. 地方にセントラルオフィスを作るというものでした。

1989年に常勤の幹事を置き、これらの事業の遂行に力を尽くせる体制になりました。

JSOの活動の中心は、新しいサービス体制の確立、全国構成を作る方向へ前進していき、JSOはその事務局として機能することになりました。

私事ですが、この前後から健康の問題を抱え始めていたので、AAの日常の活動から遠ざかるを得なくなったことを申し訳なく思っております。

そして今、JSOの運営のために新しい期待を担って、全国的基盤の上に立った委員会が発足致しました。わたしにとって大変うれしいことであります。

そこで提言します。

「新しい期待は、新しい仕事を生み、新しい仕事は、人材、スペース、資金を必要とする」

今後は一人のメンバーとして出来る限りの協力をさせていただきたいと願っております。おかげさまで、体のほうは大分具合が良くなりましたが、雑用のほうはなかなか少なくなりません。AAの方法に従って「第一のものは第一に」ということで生きております。どなたでもご用のある方は遠慮なく声をかけてください

前JSOオフィス幹事会  
代表 市川



## AAJSO運営委員長に選出されて

昨年の晩秋、某地域評議員よりJSOのオフィス運営委員として推薦したいので、立候補を考えてほしいと電話で言われ、突然のことなので少し時間をくださいということで電話を切った。

まず最初にわたしの頭に浮かんだことは“一大事”でした。わたしにそのような大役が勤まるだろうか皆さんの足手まといにならないだろうか、と！

立候補を決めないうちから頭の中は大混乱でした。

しかし、かつての泥沼の生活から正気の生き方への足掛かりをいただき、現在も“今日一日”に生かされている自分を考えると、AAの唯一の目的=まだ苦しんでいる仲間メッセージを=のために何かお役に立つことができるチャンスを、ハイヤーパワーから与えられたのかもしれない、ということで、立候補を決意し、家族、身近な仲間にも話し、みんなから励まされ、つくづくソブラエティのありがたさを痛感した次第です。選挙の結果は身にあまるほどの貴い票をいただき、当選することができました。その後開かれた全体会議

の中で、運営委員長をおおせつかり、小さい身に、なお一層、身の縮む思いがしています。

運営委員の仕事がおぼろげながら見えてきた今、前任者の方々の長い間のご苦勞を改めて感じております。

日本にAAが発足して来年は20年、記念集也会も行われる大変輝かしい時を迎えられることは、ひとえに、多くの仲間の皆さん、AAを理解され、ご協力して下さる関係者の皆さんは言うに及ばず、AAを発足当時より長年にわたりご指導して下さった関係者や仲間のお陰であると思います。

この長年の一貫した経験を引き継ぎ、より良いAA、分かりやすいAA、限りなき未来へ向かって発展するAAのために、少しでもお役に立つことができたらと思っております。

“みんなで話し合い、みんなでやろうー！”、これはわたしがAAでもらったものです。

新運営委員長 長谷川

### 第6回ゼネラル・サービス ミーティング開催日決定

6月24日(金) 25日(土) 26日(日)  
於 東京深川ホテルB & G

GSM事務局 小宮山

ゼネラル・サービス・ミーティング(以下GSM)も回を重ね、今年は第6回を迎えることになりました。回を重ねるごとに、各地域の経験の分かち合いの内容も充実し、AAの将来を見極める方向性を論じる重要な場として、成長しつつあります。

今回も、きたる6月24~26日の3日間にわたって、例年の通り、ホテルB & Gで開催される運びとなりました。

テーマは前回に引き続いて、20周年へ向けての日本のAAの棚卸し、パートとし、先に各グループにお送りした報告書のとおり、前回は時間的制約のため予定どおりの話し合いができなかった内容等を含め、より多くの問題について洞察を深め、今までの経験を踏まえ、今後のAAについて分かち合えるGSMにしたく、各地域の評議員さんをはじめ、多数のメンバーの方々のご参加をお待ち致します。

### JSOからのお知らせ

#### ニュージーランドAAからお客様を迎えて

来年のAA日本20周年記念集會では、アジア・ゾーンの国々(アジア諸国、ニュージーランド、オーストラリア)がまとまってAAサービス會議、あるいはその開催に向けてのプレ會議を開こうと、現在少しずつですが準備を進めております。

その打ち合わせのためにニュージーランドからワールドサービスミーティング評議員が5月末から6月初めに来日します。

ニュージーランドのAAの場合、サービス構成もメンバー数も日本と似通っており、巨大なアメリカ/カナダのサービス構成よりも参考にできる部分がたくさんあるのではないかと思います。これを機会に、日本のAAのサービスとしてまだあまり積極的に行われていない「刑務所関係へのメッセージ」、「広報」、「専門家協力」について、特に経験を分かち合っていたかく予定ですので、AAのサービスの経験者も、経験のない方も、関係者の方々も、興味のある方でしたらどなたでもぜひ幅広く参加していただけますよう、お願い申し上げます。もちろん、通訳付きです。

具体的なお案内はスケジュールが決まり次第、皆様にお知らせします。多くのかたがたのご出席をお待ちしています。